

教科目名 環境計画 (Environmental Planning)

学科名・学年：都市システム工学科 5 年（教育プログラム 第 2 学年 ○科目）

単位数など：選択 1 単位（後期 1 コマ、授業時間 23.25 時間）

担当教員：亀野 辰三

授業の概要

本科目では、人間活動を規定している政策、法律、社会経済、技術、ライフスタイルなどの幅広い視点から計画を検討し、それらが環境に及ぼす影響を考えることに重点を置きたい。授業の前半では地球温暖化防止や低炭素社会実現に向けての現状と今後の課題、環境と経済の関係について、学生諸君がテキストを基に日本各地の事例をまとめる。そして、それらをもとにプレゼンテーションを実施し、ディスカッションを通じて環境問題解決へ各自ができることを皆で考える場を創出したい。後半は環境計画の具体例として「景観計画」を取り上げ、景観と環境の関係について学ぶ。また、景観管理のありかたを学ぶ中でこれからの環境保全・環境管理のあるべき姿を考察する。

達成目標と評価方法

大分高専目標(B2)、JABEE 目標(d1⑤)(g)

- (1) 環境問題の過去と現在を、その背景、政策、制度等を正確に現状認識ができる。（中間試験）
 (2) 前半で学習する内容について、事例を調べてレポートにまとめることができる。（レポート）
 (3) 前半で学習する内容について、事例を調べて発表と討論ができる。（プレゼンテーション）
 (4) 自主的、継続的に学習できる。（レポート）

回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6, 7	1. 環境計画概説 (1) 環境と経済 (2) 環境とエネルギー 2. 地域の環境再生 3. 地域価値の創出 4. プレゼンテーション	○環境計画と経済のつながりについて理解する。 ○環境とエネルギーの関係について学ぶ。 ○わが国地域社会における環境再生の動きについて事例とともに学ぶ。 ○わが国における地域価値の創出事例を学ぶ。 ○上記についてまとめた内容をもとにプレゼンテーションを行う。	【理解の度合い】
8	後期中間試験		
9 9 10 11 12 13 14	後期中間試験の解答と解説 5. 景観と環境 (1) 生活圏における景観問題 (2) 景観保護と環境保全 (3) 景観管理の方法論	○分からなかった個所を理解する。 ○生活圏における景観荒廃問題について理解する。 ○景観保護の方法と環境保全の関係について学ぶ。 ○これからの景観管理の方法と主体について学ぶ。	
15	学年末試験		【試験の点数】 点
履修上の注意		①本科目の修得には自主的および継続的に学習できる力が必要である。 ②環境計画専用の大学のノート（B5 版）を用意すること（ルーズリーフは不可）。	
教科書		『環境再生と日本経済—市民・企業・自治体の挑戦』、岩波新書	
参考図書		石井・湯沢編著、亀野他共著、『環境計画総論』、鹿島出版会	
自学上の注意		教科書を事前に熟読した上で授業に臨むこと。	
関連科目		公園緑地計画、環境システム、地域計画学	
総合評価		達成目標の(1)～(4)について定期試験、レポート及びプレゼンテーションで評価する。 総合評価＝0.6×定期試験＋0.4×(レポート&プレゼン) 総合評価が 60 点以上を合格とする。原則として再試験は実施しない。	